

Realtime presentation @NTT ICC

中原 淳

jun@nakahara-lab.net

<http://www.nakahara-lab.net/>

Copyright(C) 2007 Jun Nakahara, All rights reserved.

1

中原 淳 (なかはら・じゅん)

- 東京大学 准教授
- 「大人の学びを科学する」
 - 教育学を背景に、企業・組織における人々の学習、成長、コミュニケーションを研究しています
- 共著書
 - 「企業内人材育成入門」
 - 「ダイアログ 対話する組織」
 - 「リフレクティブマネジャー」
- 今日役割・・・
 - 外部の視点から思ったことを述べる
問いかけをつくる



Copyright(C) 2007 Jun Nakahara, All rights reserved.

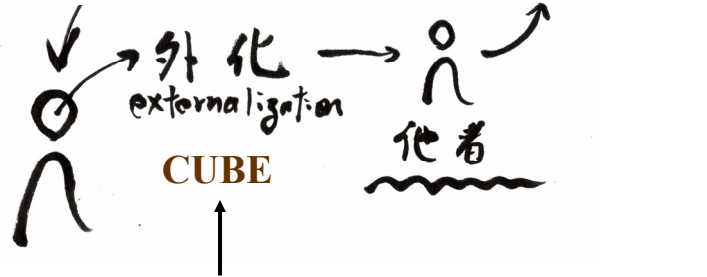
2

Workshopにおける3つのリフレクション： Reflection I

「わたし」の経験を相対化する

Reflection I : Individual

Reflection in
Workshop



①自分のPlayful learning経験

②展覧会の経験

Copyright(C) 2007 Jun Nakahara, All rights reserved.

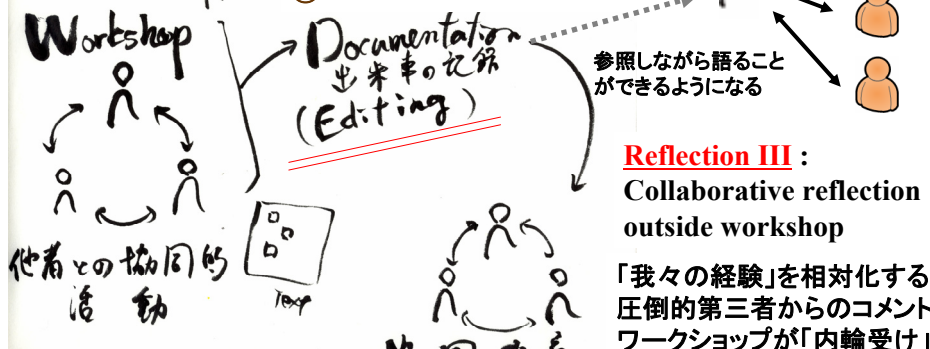
3

Workshopにおける3つのリフレクション： Reflection II / Reflection III

①Documentation wall

②Realtime Paper

③Reflection Video



Reflection III :

Collaborative reflection
outside workshop

「我々の経験」を相対化する
圧倒的第三者からのコメント
ワークショップが「内輪受け」
になるのを避ける

Reflection II :

Collaborative Reflection in workshop

成員統合機能

4

If not Reflection X

• If not Reflection I

- 「ある活動の経験」の意味づけが独善的になる
- 「ある活動・経験」の意味が見いだせない
 - やっておしまい
 - 「這い回る経験主義」に陥る

• If not Reflection II

- 「ワークショップ全体」の意味づけが見えなくなる
 - 自分の興味をもった「個別の活動」だけがハイライトする

• If not Reflection III

- 「ワークショップで学んだ内容」「自分の気づき」の妥当性が検証できない
 - 共体験(内輪)に閉じた学びになってしまう

Copyright(C) 2007 Jun Nakahara, All rights reserved.

5

企業におけるワークショップ 人材育成の側面から

• OFF-JTというラベル

- OFF-JTとは「職場を離れて行われる教授行動」
- 見落とされていたものは
 - 参加体験型の学び

• 変化するOFF-JT

- 「ワークショップ」が増えてきている
- ただ、問題も非常に多く生じてきている

1. リフレクションの時間の取り方、手法がわからない
「思ったことを話し合ってみてください」
2. ステークホルダーに「何が起こったのか」を説明できていない
「ゆるくて、かったるいもの」というイメージを変えることができるか

Copyright(C) 2007 Jun Nakahara, All rights reserved.

6

企業におけるドキュメンテーション

・「キレイにまとめる」ためのドキュメンテーションになりがち

- プロのグラフィックデザイナーなどが重要な会議に入り、グラフィックを「キレイ」にまとめていく
- 議事録+マインドマップもドキュメンテーション

キレイにまとめる=みてわかる

↓
他者に意味を聞かなくてもよくなる、語らなくてすむ
対話がおきない+相互解釈が起こらない

↓
Documentationで目指されるのは「Recording」ではない「Sense-making」
「完成品ではない外化」+「他者との対話可能性」がある方がいいのでは？

ただし、いつも、Documentationの傍らに語り部がいるとは限らない
まして、ステークホルダーには語りの時間がない
「みてわかるもの」と「みただけではわからない」が必要!?

私からの問いかけ

①これだけ人とコストをかけないと、ドキュメンテーションはできないのだろうか？何か簡便にやる方法はないだろうか？

②あなただったら、ドキュメンテーションをどのように使いたいですか？

